婦選獲得同盟會報（17）

新秋と共に陣容を新にして
―附 會報と『婦選』との合併について―

總務理事　市川房枝

吹く風も肌に心地よい秋が來た。春から夏へかけての諸種のうつとうしさ、汗、塵等々のすべてが、ぬぐはれて、新な元氣が湧いて來るのが感ぜられる。

室に今年の四月から七月迄は、會自身にとつては勿論、私自身にとつてもかつてない、忙しさが續いた。婦選大會、總會、婦人公民權案の衆議院通過等のための忙しさには喜びが伴ふからそれ程疲勞を感じなかつたが、久布白總務理事の辭任問題にからまつた我同盟に對する意識的な迫害には、事柄が事柄だけに少なからず疲れてしまつた。

×

然し同盟に對してのこの迫害は、一方には役員並に會員諸氏の團結を堅め、他方には、公正なる第三者の我同盟に對する同情、激勵となつてあらはれ、反對者側から分裂、萎縮を期待されたに拘らず、舊に勝るとも劣らない現有勢力を維持してゐる。

久布白氏の辭任、日本婦人參政權協會の更生によつて豫期された同系會員若しくはキリスト敎會員の動搖は全くなかつた。保守的婦選團體同志會の出現によつては少數の脫會者を見たが、私達はそれに倍する新會員を得つゝある。社會事業團體すら豫算の十分の一の資金をも得られないといふ今日の困難なる經濟界の實狀に於ても、本同盟に於ては、役員職員、並に會員諸氏の協力及同情者の好意によつて豫算通りの支出を維持し、積極的に、全國的に運動をすゝめてゐる。

尤も私共は、いたづらに會員の多きを欲し、その減少を悲しむものではない。お義理での會員、會員意識のない會員なら、假令百萬人あつたとて何が出來やうぞ。私共はむしろ少數でも、眞に本會の目的、立場を理解してこれに賛成し、共通の目的の貫徹の爲めに相協力せんとする會員を欲する。

此意味からいへば、保守的團體の組織、宗教的立場に立脚する婦選團體の創立は、むしろ從來ともすれば不統一に陥り易かつた本會々員を整理し、我同盟をして、少くも

一、保守的でなく常に社會の進歩に伴はんとする婦人
一、宗教的な偏見にとらはれない婦人
一、社會大衆に附和雷同せず、政府、資本家に阿諛せず、自らよしとする所に進み得る婦人
一、會としては政黨に絕對中立の立場をとるのがよいと信ずる婦人

等の團結とならしめたと見る事が出來る。

さうなれば、從來一部會員によつて考へられてゐた、婦選獲得のための一時的團結との觀念もとり去つて永續的な基礎の下に、將來の行使の問題及其他も考慮せらるべく婦選獲得同盟としては、正に更始一新の好機會に際してゐるものと考へられる。

×

去る九月七日市外國領憩の家に於て開催された中央委員會に於ては、これ等の問題についての第一回の協議を遂げた。勿論一日や二日でまとまる問題でなく、總會に於て決定さるべき事柄であるが、中央委員會としては、兎に角永久的な團體として將來の問題を研究協議することに一致した。

會員諸氏に於ても此點についての研究を進められ、その意見を開陳されるやう切に希望する次第である。

同七日の會合に於ては更始一新の第一着手として、規約に關係のない範圍内に於て會務の合理化をはかる爲め、左の諸件を決定、十月一日より實行することゝした。

一、月刊會報を廢止して月刊雜誌「婦選」の中にその內容を含めること。（但し第三種郵便物である關係上、純粹の會報的記事即ち會計報告會員の入退會等は掲載出來ない）

二、會報は年一回總會後に一ケ年間の運動並に庶務、會計、報告等をまとめて册子として發行の上會員に無代配布する、勿論必要緊急な會務は郵便を以て其都度會員に通信する。

三、雜誌「婦選」は一ケ年二圓四十錢（郵稅共）であるが、會員には特に一ケ年二圓（郵稅共）半ケ年一圓（郵稅共）に割引し、出來るだけ購讀を乞ふこと。

四、維持會員、維持會友及特別維持會員特別維持會友には、雜誌「婦選」を無代で配布寄贈すること。

×

從來年一圓の正會員に毎月會報を無代配布することについては、會員の方々より『よくこれで勘定が合ひますか、會費が安すぎはしませんか』との質問を受けた、全く會報は印刷紙代及郵稅だけの實費をみても一部平均四錢一ケ年五十錢かゝる、從つてこれに手間代、人件費、を加算し更に時々の通信費を加へると一ケ月八錢、一ケ年一圓の會費は殆ど費消されることになつてゐる現狀であつた。然しその爲めに會費を値上げする事は、本會の趣旨に反するので、此際の右如く決定した次第である。

×

從つて今後會の活動を直に知つていたゞく爲めには、「婦選」誌上によるの他ないから、出來るだけ會員諸氏の【婦選】購讀を切望する次第である。

雜誌婦選も漸く、創刊一ケ年を經て、大分基礎が出來たが、まだ經濟的に獨立する迄にはいたつてゐない。そこで雜誌もこの際內容を更新し、會員諸氏の御希望にも添ふものとしたいから、どしどし批評をしてほしい。又讀者が殖せばそれだけ發展が出來、頁數も增加出來るのであるから、會員外の購讀者の勸誘も出來るだけ御願ひしたい。

我同盟に對する迫害、惡宣傳は、今日といへども種々なる形に於て繼續されてゐる。然し私共は私共の信ずる道を進みたい。この新秋を期して更に一致團結目的の貫徹に努めやうではないか。（九月十五日）

會費その他について

會計理事　坂本眞琴

灼熱のもとよく勇敢に働らいて參りました同盟も、秋を迎え、一層すがすがしい涼風をよぶべく大に換氣法を考へまして、此度毎月怠りなく御送りしてゐました會報を雜誌「婦選」に併載する事になりました。したがつて、會計の明細にわかる御報告を今迄のやうに毎月皆樣に御知らせする事が出來ない事は、非常に殘念だと存じます。

一ケ年一圓の會費は、御拂ひ込み下さいます方にも、集金します者にも非常に不便で、これは會計擔任者の一番頭痛事で御座います。會費の納入の如何が、會の活動に多大の影響を及ぼす事は申上るまでも御座いません。玆に改めて、會計理事として皆樣方に御願申上度い事は、どうぞ此會を愛し、此の運動を一層活力あるものとして下さいます爲めに、御手數でも會費は、四年度は四年度、五年度は五年度として、御都合の御宜しい月に、御思ひ出し遊ばした日に、御送金頂き度くそれには振替口座を大に御利用頂き度いと存じます。會報が毎月出なくなりますと、一々「會費切」の御通知或は、御送金の御願ひを出しますと、手數はともかくとして、すぐに會計の上に大きな響が與へられますので、此點どうぞ御同情の上、よろしくお願ひ申上ます。

市內の維持會員及維持會友の方々で、一々御送金下さいます事をおいといなさいます方は、何日にとりに來る樣にとの御電話なり、御ハガキなり頂戴いたしますならば、使を出します。

皆樣の御健勝を祈り、重ねて、我等の目的のため一層の御健鬪御力添を御願ひ申上ます。

「婦選」十月號豫告（九月末日出來）

本邦唯一の婦人政治雜誌！　昭和婦人必讀の書！

▽**卷頭論文**　婦人の政治敎育に關する考察　市川房枝
毎月欠かさぬ女史の健筆は、他誌の絕對に載せ得ぬもの、殊に本號はその珠玉篇。

▽**婦選座談會**　東京市の衞生施設を語る
出席者　東京市衞生課長 酒井菊雄博士　井田醫院長 竹內茂代女史　玉成學園長 平山信子夫人　聖路加病院巡回看護婦長 齋藤みどり女史
自分の住む市（町村）の衞生はどうなつてゐるか。一家の衞生の責任をもつ主婦が知らない譯には行かない、又その主婦なればこそ當局者への希望も意見もある。當局の代表者と主婦たちの座談會記事の本篇こそは、市政研究に絕好の指導記事。

▽**婦選講座**　府縣政と市町村政
制限案反對とか何とかいつても、一體市町村だけに與へられるのと、府縣會迄與へられるのと、どれ位違ふかと、具體的に知るための特別記事

▽**本部の活動を傳へるには**
婦選ページ增設、讀者欄新設

▽**時評**　女子敎育改善問題　河崎なつ
公民科問題、英語科廢止問題などを斯道の權威者が直接執筆　星野愛子

▽私ののぞむ政治敎育　各氏回答

▽第二回汎太平洋婦人會議に出席して　定方龜代
定方女史は第二回會議に日本代表の團長として出席保健部の圓卓會議々長として天晴日本代表の名を揚げた人。女史の偽らざる感想活躍をよめ。

▽**本誌獨特の連載物**
米國戰鬪的婦選運動　藤田女史譯
益々佳境に入る。命を賭して獲得の途を邁進した外國の先輩の活動ぶりは眼前に展開される。何人も感謝の泪なしでは讀了しえない

▽東京見學記　秋の下枝女史
森女史漫畫
筆者が覆面してゐるだけでも興味があるのに、森女史の畫筆は愈々はれる。田舍からお上りさんの二十娘は、東京の新秋に何を見、何を驚くか？？？

▽**第一回誌友會開催**……十月十日夜六時より神田、文化學院講堂

▽**誌友研究會開始**……講師本部より派遣市內無料、地方實費

その他誌友優待の諸計畫發表！！

たつた二圓、月割にして十七錢弱、何を節約しても誌代は出ませう。お申込一日早ければそれだけお得。

急告!!　月刊會報は本號限りで廢止します

（詳細は本號をおよみ下さい）

振替東京七〇三八三番

今後の會の運動は婦選誌上に掲載します

（十月一日より實施已往には遡らず）

中央委員會報告

第十回臨時中央委員會報告

▽九月七日午前十一時より午後八時まで

▽府下調布村岡領「望の家」にて今回は特に、將來の運動方針、財政問題等重要な事項が多かつたゝめ一日ゆつくり談合するため場所をこゝにした。

▽出席—鈴木、市川、河崎、金子、北澤、藤田、大橋、坂本、武田、渡邊、森、兒玉、

▽欠席—石本(病)安宮、藤原(事)田中(無)

一、雜誌ご會報合併の件

1.「婦選」は今月までの計算によると約三〇〇圓の不足が生じてゐる。これは廣告及誌代が豫算額通りに上つてゐないからなのでさしあたりこの二つのものゝ收入を殖すことを考へなければならない。廣告の方は、八月以後よほど殆額して來てゐるが、誌代の方はまだ手近い會員の中にも、申込みも斷りもしないのがのこつてゐる。會員の中には會報をみてゐるからといふ理由で買はない人も相當ある、事實兩方の記事が相當重複してゐるのでこの際會報に入るべき記事を雜誌の方へ毎月何等かの形で入れることにして會報を年一回にしてはとの提案が出版委員會及理事會から提出され、種々協議の結果さうする事に決定した。それで會員には十月から雜誌は一ケ年二圓、半ケ年一圓に割引すること。

2.維持會員及會友特別維持會員及會友には寄贈すること。會報は九月を最終としてあとは總會の時一度出すことに決定した。

3.なほ八月までの不足額約三〇〇圓は本部から六年三月迄に補ふことになつた。從つて「婦選」の編輯事務を擔任する職員の俸給も本部より支出することに決定した。

二、宮川氏を職員ごする件

野津氏の後任は應募者相當あつたが「婦選」の編輯を一部分手傳つてゐた宮川氏が「婦選」の事務も兼任することに決定した。こゝで「婦選」の特別會計の範囲のことも出たが、それは單に誌代、廣告代、編輯費等收支の煩雜をふせぐために本部の一般會計と帳簿を別にするといふ意味のものだから、特に出版部で欠損の責任を負はなければならぬといふ事はないとの意見があり、右の通りになつた。

三、第五十九議會に對する運動方針

制限案反對の態度について、いろ〳〵意見が出たが次回へまはした共同運動の方針についても協議したがこれは坂本、藤原氏に委任することにした。

四、婦選大會及北陸大會の件

1.第五十九議會に對して婦選大會をするや否やについて之は今度は婦選が主催しないで他の團體との共同主催で開くやう運動することにした。

2.北陸大會は金澤支部創立一週年記念として十月末か十一月始めに開くこと、本部と金澤支部の共同主催とすること、なほ出來ればつゞいて關西大會も開くこと。之等は、理事と金子、渡邊鈴木を委員として細い相談をすることにした。

五、政教委員長の件

河崎理事を政治教育委員會委員長とし坂本理事を議會運動委員會相談役とすることに決定。

六、今秋の運動について

1.職業別ノ學校別によるもより會を開くこと。

2.支部を出來るだけ早く組織すること。

3.「公民讀本」といつたやうなものを出版すること、これは市川に一任した。

七、將來の運動方針について

種々懇談した、特に報告する程にまとまつた結論は得られなかつた。

八、財政的基礎確立の件

すでに夜に入り八時近かつたので協議することが出來ず次回にまはした。

第十一回中央委員會報告

九月十二日(金)午後七時より

出席—市川、金子、渡邊、鈴木、北澤、河崎、大橋、藤田、森、兒玉。

欠席—武田、坂本、安宮(事故)石本、藤原、田中(病氣)

▽雷雨のため遲刻の人が多かつたので會務報告を略しすぐ協議に移つた。

一、聯合婦人會報告—大橋

二、中央委員補欠—和田邦子氏が受諾されなかつたので更めて森鑛氏を推薦した、森氏からは此日は確答は得られなかつたがあとから受諾する旨の返事があつた。

三、久布白氏へ紀念品贈呈の件—今までに二十二圓寄附が集つてゐるので、久布白氏よりの希望により姿見を贈ることゝし、金子、森に選定を一任した。

四、北陸大會について—特別委員より出席者、期日及日程大會開催方法費用について報告の後協議大體原案通り可決、本部支部共同主催として大體期日十月二十五、二十六日に行ふこと本部より約十名出席のこと、尚出來れば十一月一、二日に關西大會を開催すること。

五、本部會計報告—兒玉

六、婦選會計報告—森

七、山田耕作氏音樂會の件—紀念音樂會の切符を賣つてほしいといふ交渉があつたが今度は秋の計劃も多いのでことはる事にした。

八、出版委員會へ三〇〇圓補顚の方法について—十月から三月迄五〇圓づゝを毎月支拂ふことになつた。

九、共同運動について—常設機關を設けることを主張し、制限案反對運動は輿論喚起の方法を選ぶことに決定、他は委員一任、十六日午後の委員會には市川、渡邊出席のこと。

十、事務所の件—現在以上に便利な能率の上る事務所に引越す事にし各自氣をつけてさがすことにした

十一、誌友の會について—雜誌販賣のためにも會員獲得のためにも一度購讀者の集りをすること(出版委員會提案)にし十月十日夜に決定した。

以上。

八月會計報告

會計理事　坂本眞琴

▲收入の部	內譯	六二七、八六
繰越		二八、五一
正會員費		九〇、〇〇
會友費		一七、〇〇
維持會員費		一一八、〇〇
維持會友費		三〇、〇〇
特別維持會員費		一四〇、〇〇
借入金		九八、三五
寄附		一〇六、〇〇
▼支出の部	內譯	五九九、六四
俸給		一六五、〇〇
返濟		一九一、八六
家賃		四二、〇〇
光熱		一、四一
文房具		四、二七
通信		二八、四五
電話		、八五
交通		一、七五
雜		六、五四
公課		、四〇
會員		、二〇
財務		八、七一
出版		三〇、〇〇
調査		六、〇〇
議會		四、五〇
會報		二九、三五
印刷		三、一〇
備品		六、二五
假支出		六九、〇〇
▼差引殘高		二八、二二

寄附金內譯

某氏(一〇、〇〇)德崎好夫氏(一〇、〇〇)生田花世氏(二、〇〇)山本照子氏(二、〇〇)上代たの氏(一、〇〇)

會費拂込者氏名

(八月一日より八月三十一日迄の分)

正會員

野津房子、川瀬とめ、菊地ヤエ、(四五年度)戸田ナげ、北村スヽエ、坂根モヽヨ、武久喜美枝、黒田規矩子吉木保子、上原豐子、津川松尾、米武はな、森はつゑ、牧类之、清水節子、岡君子、勝木みどり、坂本眞琴、(四、五年度)中村きみ子、生田花世、照井葉子(四、五年度)岡田いし、岡部萩子、鈴木サチ、(四五年度)名出イク、篠門アサヨ、帆足みゆき、西山アイ、松見磯子、山東タイ、本多てい、山本照子、岡谷可娜子(四、五年度)小松文子、中村照子、坂本芳子、杉浦あや、横江芳江、高木千枝子、菲澤あさじ、羽中田愛子、長谷川まき、二宮わさ、岩江つ流、小林三枝、上代たの、平野理枝、高倉つね、八木梅子、山田わか、中村節子、佐藤耐子、百瀬えい、田坂美登、小泉たみ子、戸野みちえ、橋本たみ子(三、四、五年度)赤尾つね、吉川森子、松尾正子、渥美ユキ、寺島都代、荒金ハツ、大西米子、藤原ナミ竹内華子、鈴木いき、大貫せつ、(四、五年度)日能てる子、(三、四、五年度)松岡光子、久布白落實大久保音羽、(三、四、五年度)

會友

北海婦人每日新聞社、平林廣人(四、五年度)中村仙太郎、三上英雄、(四、五年度)久保山武雄、千早甲子郎、鰭川五郎作、井上陳夫、山田嘉吉、福島四郎、(三、四、五年度)吉川義章、小林郷一、

維持會員

黒野はな(五年度殘九、〇〇)岡田みつ(四年度後期及五年度)鈴木小松、北澤玉(五年度殘九、〇〇)山本杉(四年度)大和俊子(五年度前期)和田邦子、溝口とし、寺田初代、堀越敏子、小泉洽子、大野英子

維持會友

城戸六郎、深水清、佐藤瑞彦

特別維持會員

龜井孝子(五年度分第二回分十圓)小林珠子氏(同第三回分二十圓)近藤中兵、藤井まつ(八回分十圓)

本月は多數會員及會友諸氏よりの會費を御送金頂きました事を有難う存じました。相變らず、借入金の項目を除く事が出來ないのは誠に殘念ですが、一方此不況にも不拘貫に此運動を理解して下さる特別維持會員或は維持會友の諸氏が逐次增加しつゝありますので、非常に心強く感じられます。秋冷にむかひ、財務委員は陣容をとゝのへ今や活動のスタートを切らふとして居ります。

久布白氏記念品費寄附者氏名

一口宛　石本靜枝、鈴木登、原さよ北澤玉、藤原靜、坂本眞琴、大橋登喜、渡邊とめ、河崎なつ、保坂勝子宮地友太郎、熊倉ミサヲ、稻川いね前島ふく、非上たみ、田中芳子、金井シヅ、大竹せい、前田つぎ、大野英子、櫸野はつ、佐藤トシ、武田勝子、二十三氏(一〇、五〇)

二口宛　福島四郎、市川房枝、金子茂、村上安惠四氏(四、〇〇)

三口　八木橋きい氏(一、五〇)

五口宛　星野愛子、藤田たき二氏(五、〇〇)

合計金二十二圓也

北陸大會の壯擧を成功せしめよ!!

今年の十一月で、創立一週年を迎へる金澤支部が、その記念にふさはしい催と考へたのがこの擧。本部と共同主催として、大にこの秋の大きな仕事として成功させる事になりましたから、會員諸姉もご後援下さい

一、時　日　十一月一、二日

一、場　所　金澤市

一、參加者　新潟、富山、石川、福井、の會員及本部員五十名以上、

但し右地方外の方でも及會員外の方でも希望者は出席差支なし。

一、大會順序

第一日＝午後大會、夜演說會

第二日＝午前市中見物、正午午餐會、午後協議會

右大會へ出席希望の方は、本部北陸大會係宛にご照會下されば、出來るだけのご相談にのります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本年度政治教育部の運動諸項

委員長 河崎なつ

本年度政教の委員長は坂本理事主力を傾倒せられんの意氣にて、己に數氏の委員と共に會合をせられたのであつたが、制限公民權附與の問題が來議會の重要問題とならんとし、他團體との共同運動の重要性も一層加はつて、對議會運動部の任務甚だ重大となつて來たので、かねて經驗厚い坂本理事は、對議會運動部に力を致されるのが、此の際至當のことゝ議まとまつて、ソチラのを援ける事を受諾して貰ひました。而も政治教育運動部もまた、公民權案の實際化に備へるものとして、今秋運動の一大目標とせねばなりませんので、各委員の方々が今一二回會合の上、事に慣れて戴きますまでしばし暫定委員長と私がなることになりました私としてはなるたけ早く慣れて戴いて政教委員の方の中から委員長の適任者を推したいと思つてゐます。

右の次第で、政教今秋の運動方針各委員の方とは打合はす時がなかつたのですが、先日中央委員會に於いて、各中央委員が特にこの問題について意見を交換しましたので、その大略を左に御報告申上ます。

まづ會員委員會と提携して

一、地方婦人に向つては

イ 北陸、婦選大會をします、金澤支部が設立滿一週年になりますのを期して金澤支部、東京本部共同主催で、來る十一月一日、二日の兩日金澤市で、新潟、富山、石川、福井、の四縣の會員を中心とする大會です。

第一日大會（公民權案、政治教育の普及に關する協議）夜演説會

第二日各支部の確立及諸運動打合

ロ、關西大會 大阪京都、奈良、滋賀、兵庫、岡山、廣島、鳥取の諸縣會員大會、十一月初旬、大會內容未定

の方法で大いに諸地方の婦人に、政治的關心を喚ひ起すつもりです。

二、中央では

イ、各所に卒業學校別の最寄會を開いて公民權案の説明討議をします。

ロ、制限公民權案反對演説會開催

三、更にまた

イ、「公民權案行使と婦人の生活」に關する平明簡易にして而も最も適切な説明を與へたパンフレット（一冊二十錢位）を發行して（市川總務執筆）婦人大衆に訴へること。

ロ、出張研究會の開設 東京は無料、地方は實費先方負擔）

以上の、諸項目の中さしづめ北陸關西大會開催に着々準備しつゝあります。

會員委員會より

委員長 大橋豐喜

會員委員會の仕事は、會員の募集、支部の組織などいろ〳〵ありますが、今年度は政教委員會と合同で最寄會を開く事になつて英學塾で一度開かれたが、委員長としての自分は家事の取込事で何にも出來なかつたので會員の方で日頃からお顔を見知つて居ても親しくお話する機會がなかつたり、お名前を知つて居てもお目にかゝる事の少ない方々にお逢ひして會の進む將來に就いて御意見を伺ひたいと思ひ立つて、八月に入つてから毎日九十度以上の暑さにまけぬ氣で戸別訪問を致しました。が初對面の方でも多年の知己の如く打解けてお話下さる方も多く、既知の方でも御希望や種々御注意を伺つて、今度の思ひ付きは有効であつたと思ひました。

大層喜んで下さる方が多かつたので今後も續けたいと思ふて居ります。併し御留守であつたり、御來客でお目にかゝれなかつたり、御都合でお目にかゝれず代人にて承ると異性の方がお逢ひ下さつて、御意見も伺へなかつたり、市外の番地がとび〳〵で判らぬお家を漸く尋ねあてゝ其門前に至れば正午の報を聞いて御食事時間に失禮と思ふて他所へ廻つたり日蔭になつた頃やう〳〵尋ねあてゝ名刺を出すと御旅行の仕度中でお目にかゝれぬとの取次にがつかりしたり、夜に入つてからお訪ねしても、氣持ちよくお逢ひ下さつたり、お忙しいお仕事の中にもお親しくお話をして下さる方もあつたりして、自分には教へられる處が深山にあつたのです。

この秋は、大に新支部を作る豫定で已に着手して居る地方に兵庫、熊本などがありますが、會の財源に就いては、各會員方の御教示や御希望に依りて昨年中半歳餘に亘つて種々調査研究をした結果が、矢張會員の增加にあるので、此方にも大に努力する筈です。本部支部の各委員方をはじめ會員會友の諸兄姉にも其意味でお一人お一人づゝでも御誘引下さるやうに切にお願ひする次第であります。

調査委員會より

委員長 藤田たき

秋風がたちそめました、調査部委員一同も新しい意氣込をもつて働いて居ります。歐洲各國婦選運動狀況の報告を依頼する手紙とクェスチヨネアは委員のお一人乘杉幸子氏の御骨折で出來上りました。婦選獲得同盟の活動、また廣くは日本婦選運動の現狀を海外に知らせる簡單な英文リポートの稿を脱し同じく乘杉氏が忙しくタイプ中で御座います。數十種の雜誌に目をとほし婦選記事を整理するのは高橋田鶴子氏の役目です新聞記事整理の大仕事を喜んで御引受け下さつた大坪英子氏が御不快の報に心を痛めて居ります。

小さい調査部委員一同は婦選に關する材料は婦選獲得同盟調査部に紹介すれば必ずあると云ふやうにしたいとの大きな野心を以つて進んで居ります。でもこの大野心は數名の委員の手では百年かゝつても成就される筈がありません。どうしてもこの仕事は會員御一人、お一人に助けて頂かねばなりません。あなたの地方新聞雜誌にあらはれる婦選記事は何卒調査部の方へ御まはし下さいませんか。あなたの市の、あなたの村の婦選運動の狀況も委しく伺ひたう存じます。婦人團體の動き、女學校、小學校に於ける公民教育の有無、狀態、その他何でも御氣付の材料をどん〳〵送つて頂きたう御座います。昨十四日の委員會で委員一同が繰返しこの希望を述べて居りました。同時に皆様方が調査部の材料を御利用願ひたいと存じます。只今のでは貧弱な材料しかありませんがゆく〳〵は御期待に背かぬやう致す覺悟です。外國雜誌等も少しは取り揃へて御座いますから御利用下さい。

出版委員會から

委員長 森[illegible]

今度會報を「婦選」に合併することにした、「婦選」が雜誌の型をとつてから一年になる。

以前の「婦選」では頁がなくて、載せたいことも常にはみ出す有樣であつたので、それでは會の目的の一つである政治教育の爲に、充分の頁を割くことが出來ないから、會報と切離したのであつたが、經費の上からも事務の上からも、更に記事の上からも重復があるので、いつそ方を一つに集注する方が得策だといふことになつたのである。

だから今後「婦選」は唯一の婦人政治雜誌であると共に、獲得同盟の機關誌である。

初めから私たちは「婦選」を深山に賣りたがつてゐるのだが、まあかういふ雜誌は、限られた人の外には誰にでも歡迎されるといふわけには行かないのださうである。なるほど一目見渡したところの世間でも分るやうに、今時生眞面目で、隱健で、殊更には人目を惹かうとしないやうな態度では、結局さういふ風な娘が緣遠いのと同じやうな、結果にしかなりはしないのである。しかし、「美人となる法」を載せない爲に、男女往來の記事を載せない爲に、そのために賣れないのなら、それはあちらとこちらとの違ひで、もとより當然であるが、政治教育の雜誌だからといつて一概に、面白くなくても仕方がないなどゝは、決して思つてゐはしないのである。同じ鯛でも料理人の腕で美味しくも不味くも食べさせるのであるから、其點に就ては力を舉げて、充分に研究して行くつもりである。それで私たちの「婦選」は大衆向でしかも專門的な、雜誌としての存在價値を兼ね備へたものになるであらう。

公民權の一票も夢ではない今日、婦人の常識の一部に、政治が加へられなければならないことは、緊急事である。各所に急拵への參政權關係が屋臺店を出し、巷の婦人雜誌に政治教育の文字が散見する時節である私たちは一層責任を感ずる。

適確な政治教育の指針と、婦選戰線の動きと、活潑な獲得同盟の運動と抱負とは、常に「婦選」を通じてのみ齎されるのであるから、會員の方でもまだ讀者でなかつた方には、是非とも讀んで頂かなければなるまいと思ふ。私たちとしては、婦人の方全部を讀者にするのでなければ、會の目的を遂行出來ないと思ふのだが、廣場に密集してゐる群集の上に大風呂敷を擴げて、覆つてしまふやうな愉快なわけには行かないのだから、先づ會員の皆さんを目標とするそして會員の方は又一人で一人の讀者をつくつて下されば、「婦選」の大風呂敷で覆ふことも、敢て夢想に止まりはしないだらうと思はれる。

私たちは「婦選」の編輯だけを能事とするのではない。「婦選」を土臺にして更に其の上に幾つかのプランを立てゝる。

其の一つとして「誌友會」の集りを持ち、市内と地方とを問はず、皆さんのお招きに應じて、ごいつしよに研究をしやうといふやうなことを既に、發表してよい運びとなつてゐる。

幸ひに、大竹、金子、鈴木、兒玉森、各出版委員は全部健在である。

財政的基礎確立について

財務委員長 渡邊とめ

總務理事は會の總体に渡つて色々御心配なさるのですが、分けても經濟的方面の御心配と來たらとても、大きいものであります。

元來金を作る仕事は財務委員會が責任を以て引受けてゐるべき筈なのでありますが、充分責任を果し得ないで、總務理事を常に苦しめて居る事を甚だ心苦しい事に存じます。あの蒲柳の質の市川さんが毎月の經濟に頭を痛めておいでになる御樣子、事務所の一室で收支決算に鉛筆を走らしてゐられる御樣子を拜見する度に、此の方から金の問題の心配だけを取去つてしまふ事が出來たら、どんなに有意義な活動に猛然として總進される事であらう。市川さんは餘りに忙し過ぎる。それもさせたくない金の問題について餘りに苦しまされ過ぎてゐられると云ふ感が何時も私は致します。其度に私の考へますことは、會の財政的基礎確立と云ふことであります。それには種々の方法がありませう。動きのない特別維持會員を五十名百名も作るとか、維持會員を五百名千名も獲得するとか基本金でも募集するとか、有利な事業でも計畫するとか等々。兎に角何とか方法を立てたいもの、立ちそうなものと心ばかりで、あれこれと思ふのであります。

婦人公民權案もいよいよ具體化されて來た此際、いよいよ吾々の運動も油が乘つて來ねばならぬ秋であります。此の際財政的困難のために油が乘らぬやうな事があつては一大痛恨事であります故に財務委員會は今秋は全力を致さねばならぬと同時に永久的の經濟基礎を確立させる事についても何等か具體案を立てたいものと思ひます。これについては會の皆樣に篤と御考慮を願ひたいと存じます。此の點に關して會員諸氏の御援助と御教示を得ますならば幸甚の至りに存じます。

新入會者

八月分—九名

◇正會員—七名

黒田規矩子（直接）岡碧子、牧美文、來武はる、上原豐子（以上津川松尾氏紹介）松尾正子（鈴木すみ氏紹介）小泉たみ子（北澤玉氏紹介）。

◇維持會員—一名

寺田初代（市川房枝氏紹介）

◇會 友—一名

北海道婦人毎日新聞社

◇正會員より維持會員に變更二名

星野はな、北澤玉

◇維持會員より正會員へ變更二名

坂本眞琴、久布白落實

◇維持會員より特別維持會員へ變更一名

龜井孝子

退會者—一四名

正會員—一二名

維持會員—一名

會 友—一名

累計	**一三二九名**
正會員	一〇〇六名
維持會員	一二五名
會 友	一三三名
維持會友	三三名
特別維持會員	二七名
特別維持會友	五名

ぜひ『婦選』をご購讀下さい。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同志通信より

■いら立しき幾日かは去りて早とほろぎ泣く音を、耳にする樣になつた何故に、久しく御無沙汰をしてしまつたのであらふか。然し、本部の事と支部の事は、片時も忘れた事はない。東京の事がきになる、新聞紙をみる度、氣は倒更いら立つ。世の中は、どうしてこんなに皮肉なんだらふか、社會主義者とか、無産黨とか、色々の名目の下に、奮起する者に出來るのは、之れ當然なりと思ふ會員一人でも多數に、婦選ーの二字だけでも女一人びとりに、結びつけたいと苦勞する。世の嘲笑はあびせかけられる、現代の婦選運動は、有閑婦人の、遊戯だ、又は、アメリカニズムの感染しているのだとかいつて、取越し苦勞をする人もある。意地からでも、きりぬけねばならぬと心に、堅く決心して、何につけても好機をうれば、婦選の進出法を、相談する。

然し乍、眞劍に、相談に乘つてくれる者は無い、ひやかし半分だ、公民權（縣をのぞき市町村を含む）十中九分迄兩院通過しさふになつている現在まだ人の事の樣に思つている。當市幾萬の婦女子がうらめしい。あれでもあたへられたら行使する事を知つているのであらふか？。

公民權だけでも茲までこぎつけた事は、何といつても婦選運動の元祖、婦選獲得同盟の諸先生方の賜と心底より感謝する。一般に、婦人運動につれ、婦選にも、隨分お骨折の方々もおられるので眞に、感謝する、然し乍、朝も婦選、晩も婦選で、婦選に一身を賭している、女史に對し今更の如く感涙にむせぶ。

益々奮闘され、第二第三も手に、入れられん事を、望むと共に、御壯健で御活動遊ばされん事を、水郷の地より、祈りて筆を擱く。

（廣島支部村上安惠）

■三伏の暑さ御變もございませんか婦選の爲各地への御活動感謝に耐へませぬ。當市にても七月廿五日母之會の第二回總會に於て俵商工大臣出席の席上にて愛知縣婦人聯盟にては婦人公民權並に婦選の獲得を期する決議を大多數を以て決議しました。誌代延引すみません、一ヶ年分送金いたします、御受納願ひます。

（名古屋岩間五郎兵衛）

■朝夕はお凉しうございますが、日中などは中々のきびしいお暑さ、この中を御厭ひなく私達の爲にお骨折り下さいます諸先生方に、厚くお禮申上げます。又今度御仲間に入れて戴きました事を感謝いたします。諸先生方の御力によりまして御指導をうけ、及ばず乍らも、諸先生方の歩みにおくれない中に進んで參りたいと存じてゐます。

■會のお忙しい時には近くでムいますから、いつでも喜んでお手傳ひに參ります。　（代々木　黑田きく）

■先日は前年度分「婦選」御惠贈賜り厚く御禮申上げます。代金は要らぬとありましたが、それでは私も心苦しいので、金一圓ほんの少しですが寄附しますから、何かに用つて下さい。又月給でも取るやうになつたら寄附も出來ると思ひますが、今は學生中の事ですから何卒御許し下さい。おかげで不完全乍ら昭和婦選史も纒つたやうです。而し材料がないので弱つてゐます。實は卒業論文に「婦人參政權問題概觀」をかいてゐる次第です。　（廣島　德崎好夫）

■昨日『婦選』八月號落手、只今ザツト拜見しました。本當にこのお暑いのに幹部の方の努力すまないと存じます。婦選がこんなに成長してゐますのに、幹部の方にも無給とは全く驚きました。精一杯働らき節約しても本部へ送る石炭が堀り出せないんですもの。會費の倍額位何とも思つてゐませんが、一圓位の會費も收める事が出來ぬとは、又氣が變つたのでせうか。一時の熱で入つた人は永續性がないと私は思ひますので、私もむりに勸誘しないのです。私は一時に派手な事は出來ませんが、持久戰に耐えて行かうと思ひます。婦選を通じて見て居る身でさへ、意氣地なしと退會者を叫びたくなります況して實際に當つて居られる幹部の方々、何卒微力取るに足らぬ人間ですが、どこ迄も緣の下の力持で盡して行かうとして居る四十七歳の明治の新しい婦人が居る事をご記憶下さい。何だか墓穴を堀つて居るやうな婦人が多くて困ります。

有給の事務員がお入用なんですね私が東京に歸りましたら、辨當持でお手傳ひに出かけます。あゝ金がほしい〳〵。ギンガムの糊の利いたのを着て、大きな不格好なカバンを提げ、眞黑になつて働いてゐるこの私は「久布白さんナンセンス」のエス子さんが見られたら何といはれるでせうハ、、、、、、、。

（京都　黑部妙）

■先月中旬、駒井姉を先頭に、私もお伴して大雲寺へ講演會に出かけました。その當時の狀況を詳しくご報告するやう、駒井姉より命ぜられたんですが、つい今日迄失禮いたして了ひました。それから豫想外の盛況裡に終つた事は何より嬉しい事でした。初めは會員も大分作る豫定でしたが、聽衆に多大の感動を與へ、野次一つとばずといつた工合で、その達きれいに引き上げた方がよからうと、募集は又の日にしました。會の前に兩地の人々と種々意見の交換もありましたが皆々好感をよせて居られる事が言外に現はれました。兩地の女性もある程度迄は覺醒を促がす事が出來た事と存じます。

まだ社會的に低い識を有つ私達同輩の中にもポツ〳〵目ざめて來るのは何よりも嬉しく思ひます。勿論今迄は餘り知られなかつた故もありますが全く問題にされなかつた事が近頃では時々熱心な意見を述べてくれる人も出來ました。別紙新入會員四名と會費御送りいたします。

（金澤　勝木みどり）

■毎月御手數もお厭ひなくお送つて下さいます「婦選」を手にいたす度毎に、本當に心から御禮申上げたく又いろ〳〵御知らせ申上げたい事があるやうに思ひますのに、限られた期間に限りない事を勉强しなければなりません事とて、いつも何かに追はれ通して失禮ばかりいたして居ります。五六月號と共にお送り下さいました「婦選の歌」は全く氣に入りました。本當にあれを口吟んで居りますと、我ながら意氣揚る思ひがして早く歸朝して諸姉たちの末席に列りそして聲高らかに歌ふ機會をえたいと思ひこがれて居ります。手紙と一緒に少しばかりの爲替お送りします。心から諸姉たちのご健康とご發展をいのりつゝ

（英國にて　本好智惠子）

■毎度思ひ乍ら失禮のみ、何卒お許し下さいませ。先月の會報で、本部の皆様のにこやかなお顏をみて嬉しく存じました。日々のご活動を心から感謝いたして居ります。

益々ご自愛遊ばして下さい、租末ですがオヤツに遊ばして下さいませ。

（金澤　津川松尾）

會員諸姉へお願ひ

——これだけはぜひお守り下さい。——

一、通信について

必ず、住所氏名明記のこと（つい氏名だけで住所がないと、同姓同名の時困ります）

轉居……には舊住所も、必ず明記の事。

改姓……には舊姓も必ず明記のこと。

（新しいのだけでは、名簿の訂正に手間取り、誤りやすいのです）

二、會費について

お拂込……は振替にて（一番間違ひなく安全です）

會費切の節は、ご通知いたしますから。

三、誌代について

なるべく、會費と一しよにご送金下さい。（別々だと料金も手間も損になりますから）

四、ご送金について

振替が一番便利です。

振替用紙ウラの通信欄に、會費いくら、誌代いくらと、それ〳〵必ずご記入のこと。

（手紙や、電話で言はれても、間違へ易いですから、）

これ迄も何度もかういふ事は係から折につけて申上げて來た事ですが今後は、會報が毎月出なくなりますので、かためてよくお願ひしておきたいと思ひます。

千人以上の會員ですと、名簿の整理だけにも逐はれます、何卒机の上で働いてゐる者の事をお考へに入れて下さつて、おたよりの折々御留意下さいませ。

專任の會計幹事が出來ましたから、これからは、會費をまめに收納するやうに切れたらおしらせもいたします。會計のご用件は、會計理事へでも、會計幹事へでも遠慮なく御申越願ひます。

それでは今後は、雜誌を通じて、又變つた形でおめにかゝりませう御きげんよう。

八月の日誌

一日（金）今日より代り合つて休暇を取る。第一は小泉。

二日（土）午前十一時より編輯會議河崎理事も出席。午後は婦選八月號發送。

五日（火）市川氏扁桃腺炎にて臥床、欠勤。

六日（水）鈴木小松、石本靜枝、鈴木すみ、吉田信子の諸氏來訪で賑ふ。午後、市川氏方にて理事會、坂本、河崎、石本金子、出席。

八日（金）午後一時より出版委員會、暑氣烈しければ會場を、金子氏宅に移し、九時頃迄協議。

九日（土）兒玉氏明日より休暇につき、小泉氏も出張、事務引繼をなす。品川しな子嬢本日より事務手傳に來所。會報編輯に金子氏多忙。

十一日（月）品川氏來所。皆々汗になりつゝ、會費督促の謄寫版を刷る。

十二日（火）宮川靜枝氏今日より終日勤務して『婦選』事務を扱ふ事となる。市川氏久しぶりにて出所。

十三日（水）野津氏外國へ出す手紙のタイプを打ちに來所。會報午後出來午後四時半迄かゝつて發送準備。

十四日（木）市川、宮川、金子の三氏婦選の會計事務整理に午後二時迄沒頭。會報發送。

十五日（金）振替局特拂局を中央郵便局に變更。小泉、廣告料集金に歩く。

十六日（土）午前九時より理事會、閉會午後四時。

十八日（月）市川氏午前市役所行。午後市川、坂本二氏募金に出勤。午後六時より議會運動委員會開催、閉會後市川、坂本金子、河崎、遠來の客熊本の山下恒子氏を伴ひ、安達内相夫妻を訪問。

十九日（火）市川、金子二氏、正午地方局に次田局長を訪問昨年夕紙所載制限案を訊す。午後は市川、河崎、特別維持會員作りに出動。午後六時より金子氏宅にて出版委員會。

廿一日（木）會費の振替拂込廿圓を越す、同時に退會者例によつて四名。

廿二日（金）宮川氏子供病氣にて欠勤、森出版委員長來訪、會報と雜誌の合併問題につき、市川、金子氏と協議。

廿三日（土）進藤氏より特別維持費拂込の通知あり、小泉氏受取りに行く。築野婦人會より講演會の申込あり。

廿五日（月）山下恒子氏來訪、熊本支部の件に付懇談、四時閉所

廿六日（火）兒玉氏歸京。小泉氏代りあつて休む。

廿七日（水）午前十時より出版委員會、午後理事會、閉所五時。

廿八日（木）兒玉氏中耳炎につき欠勤。

卅日（金）兒玉氏病氣欠勤の爲、休暇中の小泉氏をよび出し、集金。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA